

インターバンクの声（2016 年 5 月 16 日）

週末金曜日のニューヨーク市場の序盤、4月の米小売売上高や5月のミシガン大学消費者信頼感指数がいずれも市場予想よりも上振れしたことで、ドル円は109円台中盤まで円売りが進んだ。ただ、市場は依然として米連邦制度理事会（FRB）が6月に利上げをする可能性については懐疑的で、その後の株式市場が値下がりになったこともあって、結局終盤には108円台中盤まで円が買い戻されてしまった。原油価格は前日に半年ぶりの高値まで上昇していたことで利益確定売りが多く出ていたが、さほど大きな下げに繋がらなかった。原油価格が大きく下げていればもう少し円高が進んでいたかも知れない。もっとも、週明けのドル円相場にとって原油価格の下落以上に厄介な材料になりそうなのが、14日に発表された中国の鉱工業生産や小売売上といった中国経済指標の悪化だ。もともと投資や消費の減速には懸念が強く残っているだけに、この指標悪化に対してアジア時間で反応が薄かったとしても、欧米市場が敏感に反応することに対しては過去の例からも要注意だ。今週も円高方向を気にしながらの相場になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。